



広島中央トピックス

贈答用に全国へ 大和町桃生産出荷組合



三原市の大和町桃生産出荷組合は7月中旬から8月中旬、特産の桃を出荷しました。玉太りも良く、品質良く仕上がりました。贈答用を全国に発送する他、県内市場やJA管内の産直市にも出荷しました。

同出荷組合は「白鳳」「あかつき」など30種類以上を栽培しています。同町津久地区は、1957年に桃の栽培を開始。標高400mのなだらかな台地で昼夜の寒暖差が大きいため、実の締まりと味、日持ちが良いと評判です。

生産者の部谷裕幸さんは「食べる

30分くらい前に氷水に入れて冷やして食べるのがお勧め。多くの人に味わってもらいたい」と話しました。



▲選果場で桃の品質をチェックする生産者

親子でクッキング 八本松支店ふれあい委員会



JA八本松支店ふれあい委員会とJA共済連広島は8月1日、親子クッキング教室を川上地域センターで開きました。管内の小学2年生の親子を対象に募集。4家族12人が参加し、夏野菜を使ったオムライスを作りました。

地元産の規格外野菜などを使用。ピストログループの川田昭司代表が作り方を教え、ふれあい委員がサポートしました。オムライスにナスやピーマンなどの夏野菜をトッピング。好きなキャラクターに見立てたオムライスに仕上げた児童もいました。



▲夏野菜を使ったオムライスを作る参加者

野菜のクイズも出題し、正解した児童には地元産の米をプレゼントしました。

ふれあい健康促進体操 3支店合同で開催



JA西条支店、向陽支店、黒瀬支店は7月15日、三ツ城地域センターでふれあい健康促進体操を開きました。3地域の組合員や利用者57人が参加。日本ケアビクス連盟の倉西龍子さんが、椅子に座ったままで体を動かす体操を指導しました。

体操教室は、昨年7月に始め、今回で3回目。過去には旧JA広島中央が年金受給者向けに開催しており、再開を望む要望もあって今年も開催しました。

参加した渡邊美恵さんは「無理

なくできる運動で、日常生活でも取り入れたいと思った。運動ごとに効果を教えてもらえるのも良かった」と話しました。



▲椅子に座って体操する参加者

ジュエリー展示 約10年ぶり開催



JA広島中央地域は8月28、29日の両日、広島エアポートホテルで「ジュエリー&アパレルファッションフェア2026」を開きました。展示会は約10年ぶりの開催で、組合員や利用者にジュエリーやさまざまな商品に触れてもらい、楽しんでもらうことが目的です。2日間で231人が来場しました。

会場には、ジュエリーや腕時計、金製品、バッグ、靴、洋服が展示されました。また、貴金属や宝石などの査定・買い取り、ジュエリーのリフォームや修理の相談も実施され

ました。来場者にはホテルレストランのランチbuffetを堪能してもらいました。



▲にぎわった会場



水 稲

収穫後の管理

東広島市では、早生品種から順次、収穫が進み、「あきろまん」恋の予感」の刈り取りも終盤となりました。稲刈りが終わると一段落ですが、収穫後の圃場管理は、来年の稲づくりを左右する大切な作業です。収穫後の圃場をしっかりと管理し、来年の安定生産につなげましょう。

◆秋の耕起作業

稲わらを圃場に還元することで土壌中の有機物が増え、土づくりや地力の維持につながります。十分に管理された水田では、気象災害や病害虫にも強い丈夫な稲になるとされています。刈り取り後の稲わらにはケイ酸が含まれ、地力向上には欠かせない大事な栄養素です。しっかりと腐



熟させて養分を含んだ土にするため、耕起を行いましょ。

稲わらの腐熟を促進させるには、温度、水分、酸素が必要で、特に温度が重要です。これは稲わらなどの有機物を分解する微生物の動きが気温により変化するため、およそ15℃以上の気温で活発に活動します。

稲わらは水分を含んでいるため、温度が高いと分解も早く進みます。また、耕起により土中へ多くの空気が入ることで微生物の動きはさらに活性化し、水田の通気性、通水性、保水性が増します。

春まで耕起しない場合、春の耕起だけでは腐熟が不十分で有害ガスを

発生させ、田植え後、稲の根を傷め、初期成育が遅れる原因となります。

秋の耕起作業は地力向上の他に、春先における作業の効率を向上させる目的もあります。刈り取り後の耕起が早ければ早いほど効果的です。気温が下がりにくらない10月中旬に耕起を行い、最低でも年内に1回は行うことをお勧めします。

また、すき込みが遅れる、毎年稲わらが残るなどの場合は、腐食促進資材の使用もご検討ください。

腐熟促進資材

「アグリ革命」2kg粒剤



◆すき込み方法

稲わらのすき込みは、腐食促進のため、最初は浅めに行います。年内に再度、すき込む場合は、ゆっくり深く行いましょう。

排水が悪い圃場では、微生物の活動が抑制され、稲わらの分解が進み

にくくなるので、溝をつけるなど排水対策を行いましょ。

◆圃場の均平化について

圃場に高低があり、土壌が水面より上に出ていると除草剤を散布しても効果が薄くなり、雑草が発生します。

一般的に田植え前の代かき時に整備を行いますが、これだけでは土壌を十分に動かさません。年内に行うすき込み前後などの作業しやすい時期に高低の調整を行っておきましょ。



野菜

「タマネギ」の栽培

タマネギは、一年を通して消費する最も身近な野菜の一つです。原産は中央アジアとされていますが、はつきりしないのが現状です。日本に最初に伝わったのは江戸時代で、広く栽培されるようになったのは明治時代以降です。

◆品種の選定

家庭菜園や営農など、目的に応じた種類・品種の選定を行って栽培しましょう。

●早生種

11月上旬定植。5月上旬～中旬収穫。ソニック、マツハなど。

収穫時期は早いですが、貯蔵性は劣るので消費、販売に合わせて植え付け本数を決めましょう。

●中・晩生種

11月上旬～中旬定植。6月上旬～中旬収穫。もみじ3号、ネオアースなど。

収穫時期は遅いですが、貯蔵性に優れるため、長く楽しめます。大玉に作ると収穫後、傷みが多くなるので栽植密度に注意しましょう。

◆定植について

タマネギは種から育てることもできますが、購入した苗を定植するのが一般的です。定植日が決まったら、事前に圃場の準備をしましょう。

●施肥

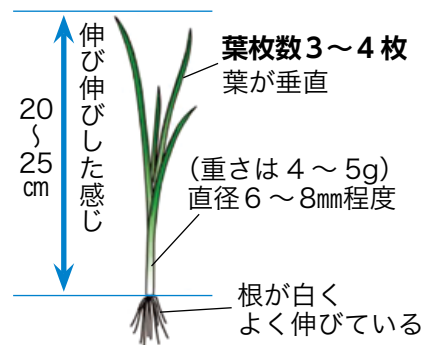
定植の2週間前に1㎡当り完熟堆肥を5kg、石灰資材を100g、りん酸資材を50gおよび「野菜189」を120g施して耕うんし、高さ15cm、幅120cm程度(使用するマルチの幅に合わせて)の畝を作ります。最近では、追肥の必要ない「タマネギ1発肥料」も販売していますので、元肥として使用すると手間もかかりません。

また「タマネギ用マルチ」は、栽植密度を気にしないで植えることができ、春先気温が安定しないときの保温作用もあるのでおすすめです。マルチをかけるときは、雨降り後など畝が十分に湿っているときに行うのが理想です。

●定植

苗は、草丈20～25cm、茎の太さ6～8mm程度のものが理想的です。茎の太いものはとう立ちする確率が高くなり、タマネギが大きくなります。茎の太さが1cmを超えると極端にとう立ち率が高くなるので避けたいですが、一般的にはとう立ち率1～2割

理想の苗



の圃場で収穫重量が最大になるといわれます。

購入苗の場合、苗は乾燥状態となっています。苗の保管は風や直射日光に当たらないよう注意し、できるだけ早く定植するようにしましょう。定植前は水を張った桶などで吸水して定植しましょう。

専用マルチを使用する場合は、間隔に合わせて定植していきます。必要本数や必要面積がわかり栽培計画も立てやすいです。専用マルチを使用しない場合は、株間10～15cm、条間20cmを目安に定植します。

苗は深植えにすると縦長球になるので深さ2～3cmとし、葉の分岐点より上に土がかからないように注意

しましょう。

定植後は活着を促すため、たっぷりがん水し、乾燥防止、霜害抑制のため株元にもみ殻などを施します。

◆定植後の管理

追肥は1月、2月、3月のそれぞれ上旬に1㎡当たり50g程度施します。3月下旬以降に追肥を行うと、とう立ちが多くなり、貯蔵性も悪くなるので注意しましょう。

タマネギは収穫するまで肥大を続けます。春先乾燥するようなら、適宜かん水するようにしましょう。

タマネギで最大の病気であるべト病は、激発すると肥大が抑制され、収穫量の減少につながります。3月から定期的に病気の予防として「ダコニール1000」などの殺菌剤を散布するようにしましょう。また、中・晩性種で長く貯蔵する場合、収穫前1週間を目安に「トップジンM水和剤」500～1000倍を散布すれば貯蔵中の腐敗を大幅に減らすことができます。農薬使用前には、容器のラベルを必ずよく読んで使用しましょう。

栽培等については、お近くのアグリセンター・営農指導員にお気軽にご相談下さい。

地区別組合員集会 開催のお知らせ

組合員の皆さまの意見をＪＡ運営に反映させるため、地区別組合員集会を次の日程で開催します。広島中央地域の組合員の皆さまはぜひ、ご参加ください。

ただし、席に限りがありますので、ご参加いただける方は事前にご連絡をお願いいたします。

- 【集会の内容】 ◆ＪＡ運営や事業・活動の実施方針、事業計画の進捗状況について
◆支店情勢、取り組み状況について
◆ＪＡへのご意見・ご要望について

【日程】

対象の支店	日時	会場	出席の連絡先
高屋・河内	11月 9日(月)10時～	高屋支店 会議室	高屋支店:082-434-2111 河内支店:082-437-1201
志和	11月 9日(月)13時30分～	志和アグリセンター 会議室	志和支店:082-433-2411
八本松・八本松南	11月13日(金)10時～	八本松南支店 会議室	八本松支店:082-428-2030 八本松南支店:082-429-0811
福富・豊栄・大和	11月13日(金)13時30分～	豊栄支店 会議室	福富支店:082-435-2002 豊栄支店:082-432-2316 大和支店:0847-33-0211
西条・向陽・黒瀬	11月18日(水)10時～	三ツ城地域センター	西条支店:082-422-8687 向陽支店:082-425-1115 黒瀬支店:0823-82-2340

※ご参加の方は、最寄りの支店に、10月30日(金)までにご連絡をお願いします。

広島中央地域 アグリセンター 休日営業のお知らせ

【10月25日(日)まで】

土曜日・日曜日・祝祭日に休日営業を実施します。

営業時間は、午前8時30分～午後5時

※10月31日(土)からは土曜日・日曜日・祝祭日は休業いたします。

肥料や農薬、生活資材をご自宅にお届けすることも可能です。お近くのアグリセンターにご相談ください。

東広島市
園芸センターより

東広島市花き生産講座受講者を募集しています

切花トルコギキョウを
栽培、出荷してみませんか？

- 【内容】トルコギキョウの露地栽培
【対象】(1)東広島市在住で市内に
耕作地を確保している方
(2)出荷販売を目的に栽培を行う方
【期間】11月から、月1回程度、金曜日の午後中心！
【受講料】無料
【定員】先着10名
【申込期間】10月1日(木)～10月30日(金)



▲種まきから収穫までを実習



▲需要が高く、産直や市場で人気がある切花です

申込・問い合わせ

東広島市園芸センター
TEL (082)433-4411

